

もっと知ろうよ I C A 9 I C Aの出版物(2)

前回は I C A の出版物の中でも毎年出版されている逐時刊行物 3 種を取り上げた。今回は、I C A がこれまでに出版した資料ガイドについてみていこう。

資料ガイド

資料ガイドとは、検索手段(=目録)の一種で、おおまかにどこにどんな資料があるかを説明的に示すものだ。I C A は、各国の文書館がかならずしも自国の記録だけを所蔵しているのではないことに着目し、各国別にその国の文書館が保存するがその国以外の国の資料にかんする所在登録を行った。『各国別歴史資料ガイド』のシリーズは、その成果である。

繰り返しになるが、ある国の文書館が保存する外国の資料の所在目録である。ある国の歴史資料は、必ずしもその国の中だけにあるとは限らない。とくに、かつて植民地であった各国の資料の相当部分は、今日も旧宗主国の文書館などで保管されている。また、第 2 次世界対戦では、敗戦国の資料が大量に戦勝国に接収されることは、日本でも経験がある。I C A では上のような理由で、各国の文書館の協力を得て外国の文書館に所在する各国の歴史資料を積極的にリストアップする努力を今日もなお続けている。これまでに出版されたのは、ラテンアメリカ(12冊)、アフリカ・サハラ以南(12巻17冊)、北アフリカ、アジア、オセアニア(10巻18冊)、アジア歴史資料所在ガイド(英語版11冊、各国語版10冊)。

アジア歴史資料所在ガイド

各国別歴史資料ガイドの一種で、アジア各国が所蔵する歴史資料の総合所在目録。英語シリーズと各国語シリーズがある。これはアジア各国にはそれぞれ独自の言語があることを反映したものだ。英語シリーズでは、インド 2 冊、インドネシア 1 冊、韓国 1 冊、ネパール 4 冊、パキスタン 1 冊、シンガポール 1 冊が、各国語シリーズではインドネシア 1 冊、韓国 1 冊、マレーシア 3 冊、ネパール 4 冊、タイ 1 冊がそれぞれ出

版された。1980年代後半に始まったプロジェクトで、今後の充実が期待される。

余談になるが、日本はこれまでのところこの「アジア歴史資料所在ガイド」のプロジェクトに参加していない。だが、文書館資料に限定せず古典籍にも視野を広げていければ、日本国内で保存されているアジア地域の歴史的な資料は決して少なくはあるまい。戦後50年を契機に政府部内で設立が検討されている「アジア歴史資料センター」は、そうした広い視野からの所在調査を行い、I C A ならびに世界の文書館や歴史研究者たちに貢献するには最も適切であろうと思われる。

(小川千代子 国際資料研究所)